

令和7年度 第3回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和8年3月26日（木）15：00～17：30

場所：飯田市役所本庁舎 第2委員会室

出席者：清水会長、鳶田副会長、佐々木委員、北原委員、田中委員、熊谷(良)委員、熊谷(真)委員、森下委員、松村委員、遠山委員、三村委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、清水総務部長、佐々木企画部長、小澤財政課長、鎌倉デジタル推進課長、伊藤人事課長

欠席者：渋谷委員、畠中委員

1 開会

欠席者連絡 渋谷 隆 様 1名

2 任命書交付

3 あいさつ

（清水会長）

本日は、今年度最後となる第3回目の行財政改革推進委員会となる。公私ともにお忙しい中、多くの皆様にご出席いただき、感謝申し上げます。ご承知のとおり、今年度は本委員会の委員の任期1年目にあたる年度であり、7月に開催した第1回の委員会では、市の行財政改革の取組や公の施設の指定管理者制度を理解するため、計画や制度などの説明を受けた。その後、第2回の委員会では、今年度末までに指定管理者との協定期間が終了する39の施設について、委員会として「実績評価」「今後の方針」を審査したところである。指定管理者の更新にあたっては、本委員会の審査結果を参考に慎重に手続きを進められ、議会の議決を経て、新たな指定管理者が指定されたものと承知している。

また、今年度は「公共施設等総合管理計画」の見直しに取り組み、素案を公表し、市民の意見募集も行いながら新たな計画が策定されたものと承知している。本委員会としても、健全な行財政を運営するための計画や取組など、市民の立場で確認し、意見を申し上げることが大切だと認識しているところである。本日は、市側から、この1年間の行革に関する計画や取組、成果などの説明を受け、意見を出しながら、新年度の取組も確認して参りたいと考える。委員の皆さんにはしっかりとご協議いただくよう、よろしくお願ひしたい。

（高田副市長）

只今、新たに就任いただいた委員の皆様には任命書を交付させていただきました。任期満了までの間お世話になるがよろしくお願ひしたい。委員の皆様には、公私ともにお忙しい中、今年度3回目となる行財政改革推進委員会にご出席いただき感謝申し上げます。清水会長のご挨拶でも触れられていたとおり、昨年7月開催の第2回の行財政改革推進委員会では、指定管理者制度を採用している施設の管理運営状況について実績評価をお願いした。委員の皆様には整理していただいたその評価を基に、次期指定管理者選定の手続きを進め、12月の飯田市議会で議決をいただき、この4月からの新たな指定管理者の選定の手続きが完了したところである。委員の皆様には改めて感謝申し上げます。

本日の委員会では、大きく2点について報告したい。先ず1点目として、去る3月23日に飯田

市議会の第1回定例会が閉会したが、そこでご決定いただいた令和8年度予算について。2点目は、飯田市として策定した飯田市公共施設等総合管理計画の概要についてである。

また、飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画についても、今年度1年間の取組と次年度の取組についてご確認いただき、委員の皆様のご意見を賜りたいと考えているところである。

この中で、課題として感じていることについて触れさせていただきたい。令和8年度予算の編成、飯田市公共施設等総合管理計画の策定を通し、当日配布資料1の3頁目中ほどに記載されている「基残高と市債残高の推移」が、正に現在の課題認識であると考えている。基金残高の減少、地方債残高の増加には危機感を持っている。事業の選択と集中、効率化を図り、限られた財源の中でも必要な投資ができるよう、健全で持続的な財政運営に努める。と整理しているが、正に今感じている課題認識である。この後説明するが、公共施設等総合管理計画の中でも整理しているとおり、飯田市には沢山の公共施設があり、その多くが老朽化しており、耐震化あるいは長寿命化の改修が待ったなしといった状況である。これを計画的に進めていかななくてはならず、また、リニア中央新幹線の整備に関連する施設、あるいは小中学校体育館の空調設備の設置など、新たな投資も必要となっている。こうした状況に対応するために、財源を確保する中で、持続可能な財政を維持していかなければならないといった現状である。そのためにも、行財政改革の取組を積極的に続けていく必要があり、できる限りの無駄を省き、効率的で効果的な行政運営をしていくことが財政運営の健全化に繋がっていくと考えているところである。

以上のことから、本日はぜひ委員の皆様からご意見を賜るようお願い申し上げ、挨拶とする。

4 報告事項

(1) 令和8年度当初予算について 【小澤財政課長説明】

- ・令和8年度当初予算の概要 資料1
※質疑・応答なし
- ・令和8年度 主な取り組みと予算 当日配布資料1
※質疑・応答なし

(2) 飯田市公共施設等総合管理計画について 【小澤財政課長説明】

- ・趣意書_飯田市公共施設等総合管理計画の策定について 資料2-1
※質疑・応答なし
- ・飯田市公共施設等総合管理計画（本編） 資料2-2
※質疑・応答なし
- ・飯田市公共施設等総合管理計画（資料編） 資料2-3
※質疑・応答なし
- ・飯田市公共施設等総合管理計画（概要版） 資料2-4
※質疑・応答なし
- ・飯田市公共施設個別施設計画（計画期間の整理） 資料2-5
※質疑・応答なし

(清水会長)

ここまでの報告事項について、内容を確認したこととする。

5 協議事項 【小澤財政課長説明】

(1) これまでの行財政改革の取組と今後の計画について 【小澤財政課長説明】

- ア 協議資料について

- ・飯田市行財政改革大綱（2025年度～2028年度） 資料3-1
- ・飯田市行財政改革大綱（2025年度～2028年度）に基づく実行計画〔2025年度の実績及び2026年度の計画〕 【伊藤人事課長説明】 資料3-2
- ・飯田市行政事務DX推進方針の取組状況について【鎌倉デジタル推進課長説明】 当日配布資料2
- ・飯田市行政事務DX推進方針【令和8年度（2026年度）～令和10年度（2028年度）】
【鎌倉デジタル推進課長説明】 当日配布資料3

イ 行財政改革に関する意見交換

（清水会長）

あらかじめ意見集約票にご意見を纏めて来られた方から順に発言いただき、委員全員の皆様から意見をいただきたい。日頃から市民として感じている事も含めて、市が「実行計画」を進めていく上で、「気をつけてほしいこと」「大事にしてほしいこと」など、委員全員からご意見をいただく場として協議をお願いしたい。

（遠山委員）

飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画実行計画について2点と、まちづくり委員会の活動をしている中で感じることの2点について。

飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画実行計画のPDCAサイクルのAについて、具体性に欠けると感じた。資料3-2の10頁②時間外勤務の縮減の取組に対する課題を見ると、「長時間時間外勤務者が一定数いるため、当該職員数を抑制していく取組が必要である。」と記載されているが、当該職員数を抑制していく取組とは、具体的にどのような取組であるか。具体案が無ければ、実績に結びつかないのではないかと考える。このことは、時間外勤務の縮減の取組に限らず、他の取組目標でも同じことが言える。

2点目として、PDCAサイクルを1年で回しているように見受けられるが、結果が出ていない取組については、例えば半年サイクル、あるいは数か月サイクルで回すべきではないかと考える。自身のこれまでの経験からも、PDCAサイクルの「C（Check/（評価・検証）」のところで、小さなPDCAを回していくというような考え方を持たなければ、結果に繋がらないのではないかと感じたところである。

日頃のまちづくりの委員会活動から感じることとして、1つは、慣例的に行われており本来の目的が何か不明なものがある。ごみゼロ運動の集計を例に挙げると、空き缶の個数やごみの重さなど、集計を行って報告している。更に各地区から出されたものを1か所に纏め、環境衛生の役員がまたこれを測り市に報告している。しかし、この集計の目的は何で、集計数値はどこに反映されているのか、一体何に必要な数値なのか不明確である。

最後に、組合未加入者数の増加についてである。南信濃地区は組合未加入者率は低いが、市全体では、未加入率は増加傾向にあると聞く。具体案が無く申し訳ないが、組合加入者が組合に加入していることで得をするような策を考え、組合に入りたくなる方向へ持っていくことが得策であると考えます。

（伊藤人事課長）

資料3-2の10頁②時間外勤務の縮減の取組に対する課題について回答する。本実行計画とは別に、飯田市職員の仕事と生活の調和の推進に関する事業主行動計画があり、具体策としては、定時で帰り易い職場の雰囲気を作るために、先ず所属長が率先して実行することや、ノー残業デーとして基本に時間外勤務を行わない日を週に一度設け、個人用のパソコンにノー残業デーである旨の表示を行うことなどの対応をしているところである。本実行計画では、総括的な表現となっているがご理解いただければと考える。

(小澤財政課長)

PDCAサイクルの「A (Action/改善・対策)」の部分の具体策が無い点について、ご指摘をいただいたと認識した。また、PDCAサイクルで結果が伴っていないものについて、「C (Check/評価・検証)」の部分で小さなPDCAを回していくという視点を持つべきという点については、大変貴重なご意見をいただいた。今後の取組に努めて参りたい。

(遠山委員)

承知した。

(鳶田副会長)

資料3-2の6頁、改革の柱1の取組目標について。1 挑戦する組織をつくる項目の令和7年度の実績値が63.9%であり、前年度比で+3.5%である。しかし、7頁の①定員管理、適正配置の推進の実績値は未記載であり、9頁③職員への自己啓発サポートの充実の実績値も0回/年である。8頁②キャリアデザイン支援(ジョブローテーション等の推進)のキャリア形成を意識した階層別研修9回/年とあるが、プラスに影響している要因は、これがか。

また、教育的立場の視点から、何か挑戦する組織をつくるのであれば、職員がどのような自己啓発に興味・関心があるのか調査してはどうか

6頁、改革の柱1の取組目標の3 多様で柔軟な働き方を推進する項目の令和7年度実績値は42.6%であり前年度比で+4.0%である。一方、11頁の①在宅勤務、執務環境の多様化の推進の実績値は未記載である。また、13頁の③高年齢層職員のスキルの活用の実績値、④女性登用の拡大の実績値、14頁の⑤男性の育児休業取得の促進の実績値は、いずれも未記載である。12頁の②メンタルヘルス・ケアの実績値2,054人(受験率86.7%)と、年3回の研修がプラスに影響しているのか伺いたい。

この他、令和7年度の取組内容にある時差出勤の導入について、ワークライフバランス検討会において研究したとあるが、例えばその結果としてどのような知見が得られたのか伺いたい。

(伊藤人事課長)

実績値のみが未掲載となっている項目については、年度末時点で集計を行うものであることから、現時点では集計が取れていないものである。定員の方針の決定について、現時点では業務量調査中であり当面は現計画のとおり800人として掲載する予定である。令和7年度は、定員800人に対し781人である。令和8年度については、確定数値は出ていないが若干増える見込みである。

同資料の6頁、改革の柱1の取組目標の3 多様で柔軟な働き方を推進する項目の数値が増えてくる点については、研修の成果があることと、職場環境の改善に取り組んでいることの効果が出てきていると考える。詳細は、令和7年度の数値を確認し分析したい。

時差出勤の導入、ワークライフバランス検討会における研究については、働き方の選択肢を増やすという提案を行った。その中で、時差出勤については業務量が多く時差出勤を選択しにくい部署もあるという点は課題である。

(鳶田副会長)

承知した。

(熊谷真祐委員)

資料3-2の10頁、令和7年度の取組内容を見ると、長時間時間外勤務を行った25人を対象にヒアリングを行ったとあるが、長時間時間外勤務とは具体的に月間の平均としてはどのくらいの勤務を指すのか、また、その最大時間などについて伺いたい。2つ目に、6頁の実行計画目標について、計画目標の4年間というのは固定の期間であるのか。

(伊藤人事課長)

長時間時間外勤務の基準は、100時間超/月、あるいは2か月から数か月の月平均として80時間

超/月の方を対象としてヒアリングを行ったものである。

(小澤財政課長)

取組目標については、飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画の4年間の実行計画である。令和6年度の参考値を基準とし、4年間で取り組むものとしており、固定の目標と捉えていただきたい。

(熊谷真祐委員)

100時間超/月、あるいは月平均として80時間超/月という、民間企業では労働基準法違反に該当するラインである。月の平均の残業時間は非常に抑えられていると思うが、現在の取組を進めていただきながら、長時間労働者に関する対策についても目標の中に入れて取り組んでいただきたいと感じた。

(佐々木委員代理松尾飯田青年会議所副理事長)

行政事務DX推進方針の取組状況について、子育て世代が周囲に多い一市民の視点から、メッセージングアプリケーション「LINE」の利用者が多いと感じている。このLINEを活用した情報発信や、詳細なやり取り等のできる仕組みについて、さらなる活用の強化をお願いしたい。

(鎌倉デジタル推進課長)

メッセージングアプリケーション「LINE」の使用に関して、飯田市では情報発信のツールとして令和4年度からLINEを活用している。LINEを用いて幅広く情報発信ができるように、また、行政手続きが出来るようにと、様々なメニューを考えながら進めているところである。まずは飯田市の公式LINEを周知し、友だち追加機能で登録いただき、登録件数を増やしたい。

(北原委員)

飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画の改革の柱1、未来に挑戦できる行政の人づくり・仕組みづくりについて、飯田市の職員数の抑制については、行財政改革大綱の中でも触れられており、ここ3～4年の傾向として職員数は増えていると把握している。一方、療養休暇を取得している職員の方が多いとも聞く。業種や向き不向き、人事異動に対し不満が出ないようにするなど、人事課で苦慮されていることが推察できる。具体的な施策を持ち合わせていないが、在籍する人材を有効に配置できる体制づくりをお願いしたい。

改革の柱2、未来に投資できる健全で持続可能な財政基盤の確立について、極端に人口が減少している実態は深刻な問題であると考え。このまま管理し続けても施設は無駄になり、その維持費もかかることになる。このことに手を付けず放っておけば、市民からの苦情も無く楽だろうと想像できるが、これは必ず取り組まなくてはならない問題であり、飯田市は市として計画的に取り組んでいると感じた。今後も、引き続き地区住民の方と意見交換をしながら、計画的に進めていく必要があると考える。

また、人口減少により子どもの数が減ると、市内の小中学校についても統廃合という話も出るだろう。地区でも話題になるが、致し方ないというか、人口が減少している実態をしっかりと捉え進めていく必要があると感じている。維持費というものは、民間企業でいえば収益を圧迫するものであり無駄である。この取組は引き続きお願いしたい。

改革の柱3、時代の変化を捉えた質の高い行政サービスの提供について、DX推進の部分は非常に大切だと感じた。飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画の資料42頁、②効果的な官民連携方策についての研究に記載の、令和7年度の取組内容を見ると、内閣府が主催する定期的なPPP/PFIセミナー(3回/年)に参加したことや、PFI事業をテーマに地元金融機関との意見交換を行ったという取組内容が見られる。これは是非とも進めていただきたいと感じている。例えば、大きな施設の計画があり、そこに新年度の予算を付けた場合、「これは、PFIを検討したのか。」という考えが当たり前に出てくる時代なのだろうと思う。行政の中だけで決定したのではなく、民間企業にも通し、この計画は望まれており、かつ予算的にも無駄なく抑えることができそうだという裏

付けを作るためにも、官民連携について引き続き取り組んでいただくようお願いしたい。

(清水会長)

本日出席の全ての委員から意見をいただくために、回答は端的にお願いする。

(伊藤人事課長)

療養休暇を取得している職員が多くいるのではないかというご意見について、12月に飯田市のホームページにて「人事行政の運営等の状況」について公表している数値を基に回答すると、1週間を超える療養休暇取得者の数は、延べ122人である。療養休暇を取得する理由としては、業務上の悩みや家庭の事情などが複合的にあり、人事課では保健師を配置したり、各所属長に対して、気になる職員については早めに声をかけて欲しいという内容で呼びかけを行ったりと、早期対応を心掛けている。また、セルフケアやメンタルヘルスケアなど各種研修を行い、相談を受ける体制も整えているところである。

(小澤財政課長)

持続可能な財政基盤の確立について、北原委員のおっしゃる通り、人口減少や社会情勢の変化、構造の変化といった問題がある。いただいたご意見を踏まえ、健全な行財政運営に努めたい。

また、PFI事業については、地元金融機関との意見交換で大変お世話になった。今後もご相談させていただきながら考えて参りたい。

(熊谷良和委員)

予防的な意見になるが、労働者側の立場から発言する。飯田市周辺の町村から飯田市内へ通勤される方、反対に飯田市内から市外へ通勤される方と、朝夕のラッシュ時には多くの人動きがある。渋滞の緩和を目的とした、市内の公共交通の拡充や、市内環状線の整備について今後検討していただきたいと考える。今後、燃料価格の高騰が懸念される中で、自家用車通勤の低減や渋滞の緩和対策として取り組んでいただきたいと考える。

(佐々木企画部長)

ラッシュ時の道路の渋滞について、発生箇所はおそらく国道や県道であると思われる。国や県において交通量調査を行う中で、必要な箇所の道路拡幅や交差点改良などが進められていると認識している。市道においてそのような箇所があれば、市としても対応を考えたい。公共交通の拡充については、渋滞緩和に繋がるかと思うが、現在の公共交通機関の運用が市民の皆さんのニーズに沿わない部分があることは課題認識として持っている。この辺りについても、より多くの市民の皆さんにとって利便性の向上につながるよう公共交通の整備について検討したいと考える。

(田中委員)

現在、市内にある義務教育学校のほとんどは築50年を超える施設であり、施設の耐用年数も厳しい状況にある。耐震化工事をしていただいているので、学校施設自体の問題は無いと思うが、子どもの数が減少していることは深刻な問題である。山本小学校の次年度の入学予定者は20人とも聞く。重ねて、2年ほど前から学園構想についての話も出ており、地域住民が拠り所としていた学校というものが地域から無くなってしまわないかと危惧している。

教材発掘から学校に任せるような構造の学園構想であるが、その到達点が一体どこなのか不明確であると感じる。学校の統合問題や施設の改修問題に加え、新たに学園構想が出てきたことで到達点は見通せない状況となり、地域住民は皆非常に不安である。この辺りのビジョンについては、市民に対しても少し詳しくアナウンスしていく必要があると考える。

経済的に考えても、このままの学校数を維持していくことには無理があると感じている。今後、どのようにしていくのかについて、具体的に市民に対して見せるべきであり、早い時期から見せていただきたいと考える。市の財政状況を見せ、方向性や理由を説明することで、市民は納得するだろう。行政は、何故かそういう部分をあまり見せたがらぬと感じる。詳細はよく分からないが、

是非、早い段階から市民に対してビジョンを見せていただきたい。

(清水会長)

ご意見としてお聞きすることとする。

(森下委員)

リニア中央新幹線の開通に向けた道路の拡幅工事について、現在、上郷飯沼地区では、鶏足院から飯田高校方面へ向かう「県道市場桜町線」が整備されているところである。その先の高松通りは、小伝馬町から飯田市街地に続く道路であるが、リニア開通前の現時点で既に渋滞を起こしている区間である。リニア中央新幹線が開通したとき、当該道路の渋滞はどうかと危惧しているが、何とかならないものか。

(松村委員)

改革の柱1の取組の内、高年層職員のスキル活用について、どのくらいの方が定年後も市職員として勤務を希望されているのかお聞きしたい。人口減少が進む中で、優秀な人材確保が難しい状況になりつつあることが予想されることから、高年層職員を採用する運用が更に進むと良いと考える。このような制度が整ってきているが、制度だけでは進まない問題もあると思う。職場の雰囲気良くすることで、この制度が有効に生かされることを願う。

(三村委員)

サル・クマの出没情報を纏めたマップやリサイクルマップの存在を知らなかった。活用したいので、発信方法やツールについて伺いたい。

2点目として、組合未加入者に対し郵送で回覧文書を届けていると聞くが、オンラインで対応することで経費削減に繋がらないか。

3点目として、既存の建物の有効活用を検討していただきたいと考える。例えば、小学校の空教室の1階部分を利用して公民館とする、あるいはサークル活動に利用するなど、有効に活用できないか。学校施設を利用することで駐車場も確保でき、建物施設を残すこともできると考える。

(伊藤人事課長)

高年層職員のスキル活用について、ここでいう高年層とは定年年齢(従来は60歳、現在は65歳)を指す。管理職の方は役職定年として扱い、再任用時には、一般職、係長級、課長補佐級と区別があり、働き方が異なる。60歳を過ぎた後の働き方として、自身の経験を活かし働ける職場について聞き取りを行い、人員配置を行う取組である。

(鎌倉デジタル推進課長)

いいだWebマップについて、現在、21のマップがあり、中にはクマの出没時点分かる地図やリサイクルステーションの場所や時期が分かる情報を載せた地図などを掲載している。市民の皆さまに対し、まだまだ周知が足りないと感じるところであることから、今後も様々な機会を生かして周知して参りたい。

回覧文書を個別に郵送対応しているケースについては、おそらくゴミ出しカレンダーであると思われる。オンラインで対応可能であり、既にオンライン掲載している。今後はLINEで通知を行うなど、デジタルツールを用いながら、市民の皆さんへの情報発信に努めて参りたい。

(清水会長)

本日の協議事項は以上とする。ご出席いただいた委員全員の皆さんからのご意見をいただき感謝申し上げます。意見集約票を活用いただき、記入後は提出いただくようお願いする。

6 今後のスケジュール【岩崎行革・施設マネジメント係長説明】

(1) 令和8年度の行財政改革推進委員会の開催予定について

・第1回（令和8年6月頃を予定）

7 その他 【岩崎行革・施設マネジメント係長説明】

○ 委員報酬及び旅費について

※質疑・応答なし

（高田副市長）

閉会にあたりひと言御礼申し上げます。事務局からの説明が多い会議であったが、多くのご意見を賜り感謝申し上げます。委員の皆さまは、3年任期の1年目が終了するところであるが、改めて、令和8年度も引き続きよろしくお願ひしたい。

8 閉会